

Ⅲ. 中学選択プロジェクト・高校新教科群の取り組み

中学選択プロジェクト

選択プロジェクト

薫 森 英 夫

【抄録】 選択プロジェクトについてまとめる。中高一貫カリキュラムを立ち上げたとき、中学における特色ある授業として企画された。その後は今までの実践により成果が確認され、本校の教育に位置付きキャリア形成の一翼を担ってきた。本報告では、できあがったこの講座が最近はどのように運営されているかを簡単にまとめる。

【キーワード】 選択プロジェクト、中高一貫、異学年共同授業

1. はじめに

選択プロジェクトの最大の特徴は併設型中高一貫校における、中学2・3年生を対象とした少人数選択授業であることだ。本校教師が開講するそれぞれの教科の枠を超えた特徴ある授業を生徒が選択する。前後期各8回の講座で、幅広い視野や知識を身につけることができる内容になっている。つまり、中学2・3年の計4回の講座で、様々な学習が生徒の選択によってできるのである。

2. 指導目標

- (1)学習者の興味・関心の掘りおこしや課題追究の機会を与える。
- (2)浅く、広い学習を通して、個を探り、自立と共同の学びを行う。
- (3)各教科を多面的に追究することにより、学習内容を深めたり、学習項目の関連に気づいたり、新たな観点から学んだりする。
- (4)自己の個性を新たな観点から探求する。
- (5)選択により学習への動機付けを高め、自己決定の経験を増やす。

3. 指導計画

2005年度は中学9教科から9講座を隔週木曜日の5・6時間目の2時間連続で展開した。各担当者が8回分の授業計画を考案し、生徒向けに講座内容を紹介する。講座の希望をとり、最大20人（例外もある）として可能な限り生徒の希望を実現する。各講座とも、通常の教科授業では時間・人数の制約から取り扱うことができない学習内容を教科の視点で考える指導計画が実施される。その結果、実験・作品製作・創作活動・発表活動を通して生徒が主体的に取り組む学習内容となり、各教科の観点から深めたい学習内容が計画され実践されていく。

4. 学習方法と形態

講座の展開形態

- ①2時間連続授業（100分）8回
- ②中学2年で2回（前期・後期）、中学3年で2回（前期・後期）合計4回の選択（同一講座は選択できない）
- ③通常の教科授業では時間・人数の制約から充分にできない学習内容を、教科の視点から教師が学習計画を立案する。
- ④学外講師（大学・市民講師等）とのチーム・ティーチングを積極的に追究する。

5. 評価について

通常の教科にある観点別の評価を基盤に、選択プロジェクトにおける授業目標に合った新たな観点別の評価基準として、次の4つを設けた。

- ①事象への関心・意欲・態度
- ②創意工夫する能力
- ③学習内容をまとめ、表現する能力
- ④事象についての知識・理解

6. 講座名と選択した生徒数

2005年度選択プロジェクト開講講座と人数

講座名	05前期講座人数	05後期講座人数
①楽しい毛筆教室	12人	13人
②映像の20世紀	22人	25人
③数検にチャレンジ	8人	10人
④身近な自然	18人	18人
⑤歌で表現しよう	13人	15人
⑥これってART?	22人	14人

⑦郷土食・行事食・日本のスローフード探究～	19人	18人
⑧附属発！未来のスポーツ	24人	20人
⑨THROUGH ENGLISH MOVIES AND...	23人	25人

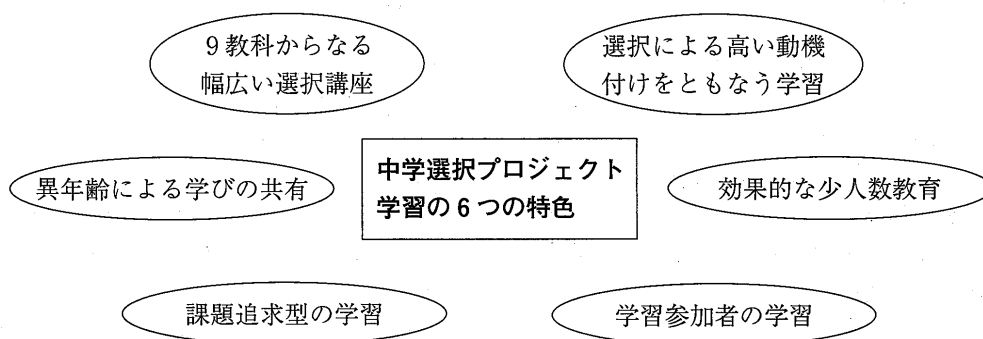
7. 選択プロジェクトの分析について

(1) 選択プロジェクトの特色

まず、選択プロジェクトの特色を確認しておく。

(2002附属学校紀要より)

学習の特色



学習の目標・期待される効果

1. 学習者の興味・関心の掘り起こしや課題追求の機会を与えることを目標とする。
2. 浅く、広い学習を通して、個を探り、また自立と共同の学びを目標とする。
3. 各教科を多面的に追求することにより、学習内容を深めたり、学習項目の関連に気づいたり、新たな観点から学ぶことができる。
4. 自己の個性を新たな観点から探求する機会が与えられることになり、自分の個性を探る経験ができる。
5. 選択による学習への動機付けが高まり、また自己決定の経験を増やすことができる。

(2) 今後の課題

異年齢学習は、体験学習として全国でいろいろな形の実践がある。教科としてカリキュラムの中に根付いているものはまだ少ない。一方で、授業者も生徒も、今一つ明確に異年齢学習の効果を打ち出せない現状もあるように思える。また、新教科との系統性を明確にすることで、個性探求期と専門基礎期の教科シラバスとの関わりが明らかになり、教科の授業へのフィードバックがより明確になる。さらには、評価に関して、教科の具体的観点の検討が必要である。そのほかにも、隔週2時間の授業のため連続性がないなど、はっきりとした授業の効果が見える一方で、毎年同じ課題が挙げられてきた。今年度はさらに、担当者が非常勤講師の講座が多いので、連絡方法や時間に差が出て、連携が取りにくいという新た

な問題点も出てきた。これらの問題を早期に解決し、選択プロジェクトが来年度からさらに発展していく方法を模索したい。